

この写真は、中部森林管理局が、保有する国有林野事業に関する古い写真・映像資料について、デジタルアーカイブ化を進めている作業の中で見つかった写真です。明治神宮の社殿は、昭和二十年四月の空襲で焼失し、その後、国内外の寄付などによって、昭和三十年から三十三年にかけて復興造営工事が行われました。工事に用いられた木材の多くが裏木曾国有林から伐採されており、地元自治体である中津川市にも縁のある、歴史的な資料ではないかと考え、これらの写真群のうち九点について拡大してパネルを複製し、中部森林管理局から中津川市に贈呈することにしたものです。

当日は、東濃森林管理署長から青山節児中津川市長に、パネルが贈られ、市長からは、「中津川市の木曾ヒノキが、よく知られている伊勢神宮だけでなく、様々に役立つてきたことがわかる資料をいただき大変ありがたい。市民にとって誇れる資源であることを広報誌等で紹介していきたい。」と感謝の言葉をいただきました。

パネルは早速、市役所ロビーに設置され、三月末まで展示していただきました。訪れた市民の方々は、昭和三十年に行われた御用材の斧入れ式（木本祭）や新宿駅（東京）に到着した御用材、横綱を先頭にした御用材御木曳の様子、御本殿扉の加工作業等のパネルに興味深く見入り「これは中津川市の誇りだ。」



中津川市役所に展示されたパネル

との声が聞かれました。
中津川市によれば、パネルは今後五月三日から開催される「つけち森林市」の会場で展示するなど、広く市民の皆さんに伝えていただくとのことです。

信州大学山岳科学総合研究所

打ち合わせ会議

【中信署】三月十八日、松本市旭にある国立大学法人信州大学理学部において、信州大学山岳科学総合研究所（以下「研究所」という）との打ち合わせ会議を実施しました。この会議は、我が国の学術の振興及び環境保全をはじめとする森林の多面的機能の発揮に寄与するとともに、地域に貢献することを目的として信州森林管理署と研究所の両機関が森林及び山岳分野に係る研究教育、技術開発等の相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施するため、平成二十一年七月二十七日に連携・協力に関する協定を締結し、毎年開催しているもので今年で五回となりました。

今回、今年度の活動報告として、署からは本年度の取組状況（主要事項、ホームページの更新など）を説明し、研究所から、ニュースレターの紹介、研究者から①上高地・明神地域における湧水の特徴②日本アルプスにおける二〇一三年の越年性雪渓分布③白馬岳の山火事跡地における四年間の植生回復の三課題について

の発表が行われました。



植生回復の発表



会議の様子

ての発表が行われました。

参加した当署の職員から、現在行われている事業への応用として、「湧水に含まれる成分分析に加え、地上水と浸透水の温度差による流入経路の識別化等が可能か」「毎年の気温の変化と積雪量の因果関係はあるのか」等、多くの質問がされ、充実した打ち合わせ会議となりました。

最後に今年度末で研究所の所長を退任される理学部鈴木啓助教授から、白馬岳の山火事跡地における植生回復調査、航

空写真の貸与等数々の森林管理署の協力に対してのお礼と、また、来年度から信州大学の改革にあわせて信州大学山岳科学研究所に名称を変更し、南箕輪村にある農学部へ移る旨の報告がされました。なお、研究所が変更しても引き続き協定の主旨を踏まえ、連携・協力をしていくことを再確認しました。

職業訓練のための木曾産木材の供給と利用等に関する協定

【木曾署】三月二十六日、長野県上松技術専門校において、上松技術専門校、木曾官材市売協同組合及び木曾森林管理署の三者で締結する「職業訓練のための木



協定書調印式で挨拶する高嶋木曾署長



協定書締結後握手を交わす代表者

曾産木材の供給と利用等に関する協定書」の調印式が上松町立会の下に行われました。

長野県上松技術専門校は、木工科と木材造形科があり、全国から約四十名の生徒が入校し、一年間の家具製作等に必要技術を習得し、木材関係の工場等へ卒業生を送り出している職業訓練校です。木工等の実習にはクリ、ナラ、サクラ等の広葉樹を使用し、家具製作などの基礎を学んでいます。

同校の実習では、これまで木曾谷から産出される木材ではなく、他の地域の卸売業者から製材品を購入して使用されており、前鈴木局長が同校を視察した際に局長から「実習用教材として国有林から

産出される木材を供給できないか。」との提案を受けて、同校や同組合と調整し、国有林材の供給と加工のほか、林業や木材加工の学習フィールドの提供などを内容とする協定を締結することになったものです。

調印式においては、長野県上松技術専門校の大屋校長から協定に至った経過報告と「本協定により、地域が育んできた産業と歴史を学び、次代への木工に係る後継者を地域の力で育てていくという意義ある協定が締結できた。」と挨拶があり、当署の高嶋署長からは「この協定を通じ、木材の性質や森林・林業に対する理解が深まり、地域の木材産業や伝統工芸を引き継ぐ多くの人材が育っていくことを期待している。」、木曾官材野村理事長からは「この協定が意義あるものとなるよう地元の木材関係団体として最大限の協力をして参りたい」と決意が述べられ、立会人の畑中上松副町長からは「本協定は木材産業等の発展に対し意義ある協定であり、上松町としても卒業生が当町で就業できるような支援について取り組んで参りたい。」と祝辞をいただきました。

今後、本日の協定締結に基づき、地域材を利用する木工技術・技能を引き継ぐ多くの若者が、長野県上松技術専門校から羽ばたき、山村地域の発展につなげていくよう取り組んでいきたいと考えています。

森林整備協定を締結し 民有林と連携

【岐阜署】平成二十六年三月二十二日、下呂市役所において、「下呂市小坂町北東地区森林整備推進協定締結式」が開催されました。締結式では、岐阜森林管理署長、下呂市長、岐阜県下呂農林事務所長、(独)森林総合研究所 森林農地整備センター 岐阜水源林整備事務所長及び小坂町森林組合 代表理事組合長の五名により協定書への署名がなされました。



協定書を手にする代表者 (中央が森川岐阜署長)

た。

本協定は、平成二十二年九月に岐阜県と中部森林管理局において締結した、森林の持つ多面的な機能の持続的発揮及び木材の安定供給等を目的とした「岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書」に基づき、下呂地区初となる森林共同施業団地を設定し締結したものです。

本協定の目的は、民有林と国有林が連携し間伐等の森林整備や作業路網の整備に取り組むことで、林業の生産性の向上や林業事業者の育成・強化、木材の安定供給等の着実な推進を図り、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるとともに、下呂市小坂町の林業・木材産業の活性化に資することを目的としています。

この森林共同施業団地は、民有林二、四〇〇畝、国有林二、八〇〇畝 計五、二〇〇畝で、国有林は五四%を占めています。

協定期間は、平成二十六年度から平成三十三年度までの八年間としています。

森林整備は保育間伐一〇〇畝、搬出間伐三〇〇畝を計画しています。

路網整備は、林業専用道三、〇〇〇メートル、森林作業道一、八〇〇メートルを計画し、路網整備に当たっては民有林と国有林を一体的に連絡・循環する効率的な路網整備を推進することとしています。

調印後の記者会見で、森川岐阜森林管理署長は「小坂町北東地域の林業、木材

産業の活性化に貢献したい。」、野村下呂市長は、「県内に大型加工施設ができて需要の高まりを感じる時、本協定は意義深い下呂市の林業再生に寄与するものと考えられる。」と挨拶されました。

この協定締結がゴールでなくスタートとして位置づけ、今後は、各機関と連携を密にし、協議を重ね森林整備の推進に取り組んでいきます。



「北信署黒姫森林事務所」

森林官 森田 直宏



国有林内での活動状況 (アフアの森財団)



生産と造林の一貫契約 (伐採状況)

黒姫森林事務所は、長野県上水内郡信濃町内の国有林を中心に約六、八〇〇畝の森林を管理しています。

管理する国有林から生み出される水は、上水道や農業用水に利用され、地域の重要な水源林となっています。

また、「黒姫高原スノーパークスキー場」や「いづなりリゾートスキー場」の二つのスキー場に加えて、北信五岳の裾野を利用した森林セラピー基地「癒やしの森」など森林を利用した施設が多くあります。

平成二十三年度には、国有林に隣接する民有林で様々な活動をしている、アフアの森財団と「社会貢献の森における森林整備活動に関する協定」を締結し、国有林の森林整備などの活動が行わ

れています。

黒姫森林事務所は、北信森林管理署管内の中で生産事業が活発に行われています。平成二十五年度は、五件の生産請負事業があり、約一二、〇〇〇立方メートルの生産量がありました。

昨年度は、中部森林管理局管内で初めての取り組みとなる、主伐と植付の一貫請負契約を行い、コンテナ苗の植栽も実施しました。この事業では、信州大学と中部局が締結した協定に基づき、低コスト造林技術の開発、普及について調査研究を行っています。



生産と造林の一貫契約 (植栽状況)



収穫調査の様子

現在、黒姫森林事務所では、森林技術員と非常勤職員を含めて四名で境界巡検や収穫調査、分収育林の明認作業等、日々業務に汗を流し頑張っています。毎年度の事業計画を立てる際には、森林技術員等は現地の状況をよく知っていることから、適切なアドバイスをしてくれて非常に助かっています。
平成二十五年四月に赴任し、早くも一年が経過しました。昨年は森林官の業務をこなすのが精一杯だったので、二年目となる今年度は計画的に業務を進めていきたいと思っています。

新規採用者の紹介

どうぞよろしく
お願いします。



- ① 出身地
- ② 趣味・特技
- ③ 社会人になっての抱負

平成二十六年四月、五名の職員が採用となり、管内各署に配属となりました。新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。

☆一般職



おおくやま あやな
奥山 綾菜
(富山署)

- ① 愛知県江南市
- ② 音楽鑑賞
- ③ 未熟な面が多くありますが、様々な業務や先輩方のご指導により社会人として成長していきたいです。



こやま きょうへい
小山 恭平
(飛騨署)

- ① 愛知県日進市
- ② 歩くこと、登山、動物園巡り
- ③ 私は高校や大学で林学を体系的に学んだ経験がないので、森林が雨水を吸収するように先輩方から多くのことを学ばせて頂ければと思います。



じょうない ゆうき
城内 優希
(中信署)

- ① 長野県小県郡長和町
- ② バスケケットボール、絵を描くこと
- ③ 同期・先輩・上司などたくさんの人達に支えていただきながら精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



のなか けいすけ
野中 恵介
(岐阜署)

- ① 福島県会津若松市
- ② 登山、サイクリング、ドライブ
- ③ 良い社会人になるために報・連・相を心がけ社会人として、人としての先輩である上司の方々を目指し、励んでいきたいと考えています。よろしくお願います。



こうけつ いつき
纈纈 樹
(東信署)

- ① 岐阜県下呂市
- ② 風景写真を撮ること(特に自然)
- ③ 明るく、前向きに、元気よく、この三拍子をいつも心に置いて頑張りたいと思います。よろしくお願います。



行事・会議等の予定

◎ 森林管理署長等会議
5月22日～23日 中部局



名古屋城

◆名古屋城の本丸御殿
愛知県名古屋市内に、日本百名城に選定されている名古屋城があります。築城は一六一〇年から行われ、天守閣の屋根の上にある金鯱(金のしゃちほこ)でも有名な、国の特別史跡に指定されています。この名古屋場本丸の天守閣南側には、かつて本丸御殿(一六一五年完成)があり、近世城郭御殿の最高傑作と言われ、京都二条城の二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の双壁となっています。

勇壮な天守閣と優美な御殿が並び建つ

ご当地自慢

名古屋城本丸御殿の復元

12

愛知森林管理事務所



天守閣

ことで、昭和五年に国宝に指定されましたが、第二次世界大戦末期の昭和二十年五月の空襲で双方とも焼失しました。その後、天守閣は昭和三十四年に再建され、本丸御殿も復元が望まれてきました。

◆本丸御殿の復元

平成二十一年一月、名古屋開府四〇〇年プロジェクトの一環として復元が始まりました。本丸御殿の歴史的・文化的価値を有するとともに、広く市民が活用できる財産となるように、工期を三期十年で総事業費一五〇億円をかけて工事が行われています。

復元の手法としては、焼失前と同等の歴史的・文化的価値を有する建物を再現するよう、原則として旧来の材料・工法により行われており、木曽地方などで育った天然ヒノキが多く使われています。

- 構造階数 木造平屋建(書院造)
- 延べ面積 約三、一〇〇平方メートル
- 建築面積 約三、六〇〇平方メートル
- 主な部屋 玄関(謁見者の控えの間)
- 表書院(外客応接の間)
- 対面所(内臣対面の場)
- 上洛殿(将軍上洛時の宿舎)



本丸御殿

◆見どころ

工事現場は風雨から全体を守るため「素屋根」で覆われていますが、「素屋根」の内部には全体が見渡せる見学通路があります。また、工事現場すぐそばには見学コーナーがあり、窓越しに現場の様子を見たり、木についての学習や大工道具の見学もできます。

また、平成二十五年五月から、玄関と表書院が公開されています。御殿の室内は虎や豹、花鳥風月などを画材とした障壁画や飾金具などで豪華絢爛に飾られており、御殿の建物全てが美術館のようです。

現在、本丸御殿公開記念として「名古屋城春まつり」が五月六日まで開催されており、特別観覧として玄関二之間へ入室できますので、この機会に是非ご覧になつては如何でしょうか。



本丸御殿の様子

アクセス方法

【公共交通機関】

地下鉄名城線

「市役所」下車七番出口より徒歩五分

【家用車】

名古屋高速都心環状線

「丸の内」出口から北へ5分